

平成28年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート（1）

（区分）**国補**・県単

事業名	中山間地域総合整備事業（国補）		事業箇所	北杜市高根町・大泉町		地区名	八ヶ岳東部	事業主体	山 梨 県		
(1)事業着手年度	H11年度	(2)事業期間	H11年度～H23年度		(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	3,070百万円			
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等					
<p>本地区は山梨県の北西端、八ヶ岳の南麓に位置し、八ヶ岳湧水群などから供給される農業用水を利用した水田農業、冷涼な気候のもとで高原野菜の栽培など恵まれた自然条件を活かした農業が営まれている。</p> <p>しかしながら、中山間地域特有の急峻な地形や担い手の高齢化、後継者不足などに起因し、耕作放棄地の増加などの農業生産上の課題を抱えており、地域力の低下が懸念されていた。</p> <p>これらの課題を解決し、地域の活性化を図っていくために、効率的な農業を行うための農業生産基盤の整備、定住環境を向上するための生活環境基盤の整備に加え、都市農村交流を促進するための拠点整備を総合的に実施した。</p>						省略					
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果											
（事前評価未実施）											
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 <input type="checkbox"/> 副次目標 ・集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ・農業用排水能力の向上 <input type="checkbox"/> 副次効果 ・農地の保全											
(7)整備内容（目標達成の方法）											
用排水路（17路線）L=8,879m 農道（11路線）L=3,913m ほ場整備（3地区）A=21.9ha 農地防災（4箇所）N=4箇所 農業集落道（1路線）L=547m 集落排水（1路線）L=304m 農村公園（5箇所）A=23,600㎡ 活性化施設（1箇所）A=458㎡ 情報基盤整備一式 施設間連絡道（1路線）L=140m											

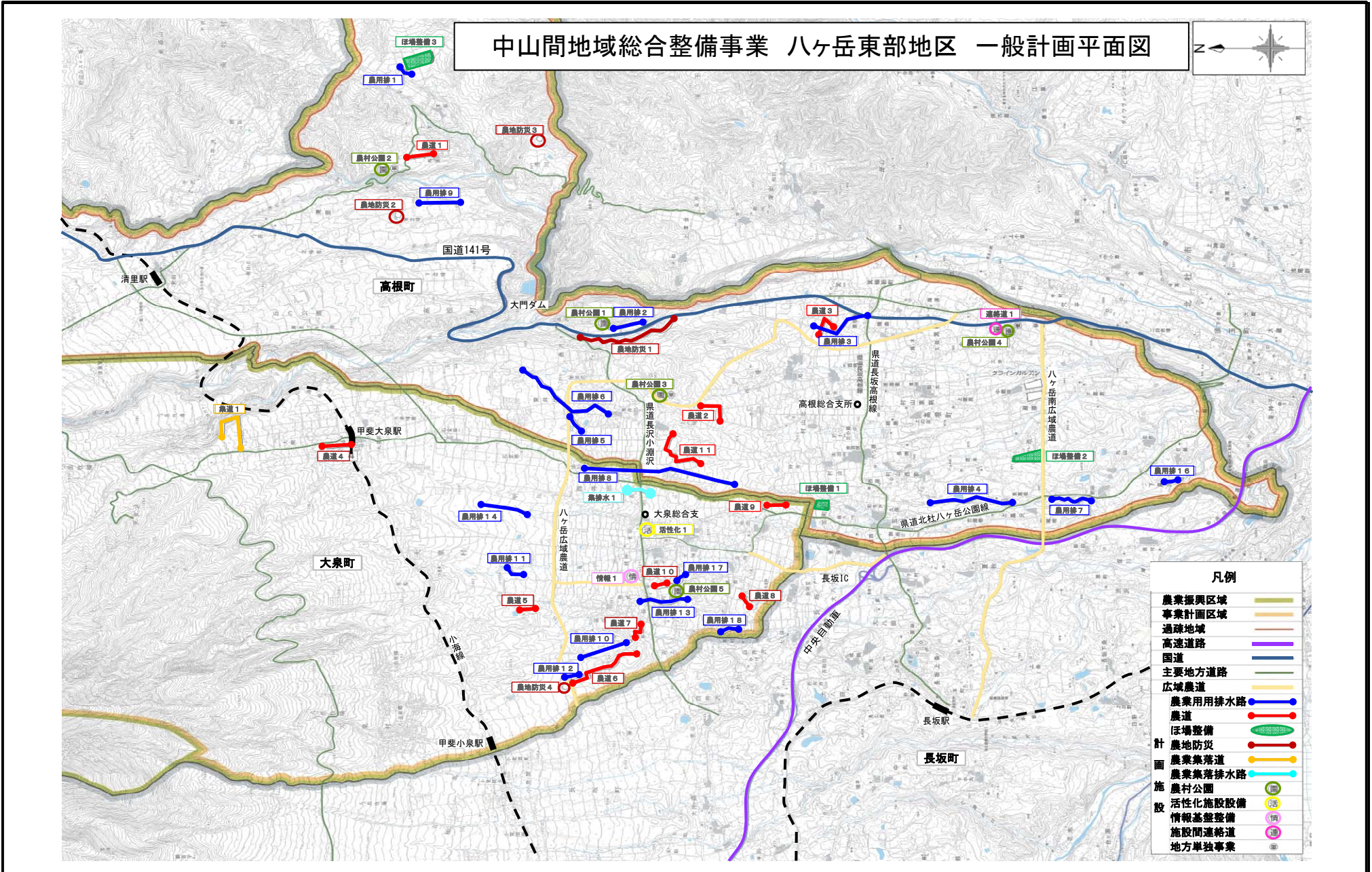
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 〈 良 〉 ・ 不良</p> <p>(理由) 農道や用排水路が整備されたことにより、農産物の品質向上や運搬時間が短縮されるとともに施設管理が容易となり、農業経営の改善が図られた。また、農村公園、活性化施設整備等により都市住民との交流や地域住民の憩いの場を創設できた。</p> <p>① 主要目標 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積当たり農業所得の増加額</td> <td>365千円/ha</td> <td>1,381千円/ha</td> </tr> <tr> <td>施設当たり生活環境施設受益者数</td> <td>348人/力所</td> <td>348人/力所</td> </tr> <tr> <td>面積当たり農村公園受益者数</td> <td>1,350人/千㎡</td> <td>1,350人/千㎡</td> </tr> <tr> <td>交流施設当たり利用者数</td> <td>108人/日/施設</td> <td>70人/日/施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価 ・ 農業所得の増加額が、評価基準値1,203千円/haを上回っている。 (農業生産法人が参入し、高品質な高原野菜の栽培が増加されるなど、農業所得が増額となった。) ・ 生活環境施設受益者数が、評価基準値241人/力所を上回っている。 ・ 農村公園受益者数が、基準値673人/千㎡を上回っている。 ・ 交流施設当たり利用者数が、評価基準値55人/日/施設を上回っている。</p> <p>② 副次目標 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>3.04%</td> <td>100% ※1</td> </tr> <tr> <td>施設老朽度（残耐用年数）</td> <td>0年</td> <td>25年 ※2</td> </tr> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>1.00</td> <td>1.22 ※3</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価 ・ 事業の完成により4.6kmが幅員4m以上に改良され、幅員4m以上道路延長率が100%となった。 ※1 全幅員4.0m以上道路延長率 = 対象路線の全幅員4.0m以上の道路延長(4.6km) / 対象路線の全体延長(4.6km) ・ 施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。 ※2 施設老朽度 = 施設の耐用年数(30年) - 完成時からの経過年数(5年) ・ 用排水能力向上率が基準値1.00以上を満たしている。 ※3 用排水能力向上率 = 計画用排水能力(12.03m³/s) / 既存用排水能力(9.89m³/s)</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	面積当たり農業所得の増加額	365千円/ha	1,381千円/ha	施設当たり生活環境施設受益者数	348人/力所	348人/力所	面積当たり農村公園受益者数	1,350人/千㎡	1,350人/千㎡	交流施設当たり利用者数	108人/日/施設	70人/日/施設	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	全幅員4.0m以上道路延長率	3.04%	100% ※1	施設老朽度（残耐用年数）	0年	25年 ※2	用排水能力向上率	1.00	1.22 ※3	<p>③ 副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農地の保全</td> <td>降雨時の水路の溢水により、表土の流出が発生していたが、用排水路の整備により排水機能が改善され、農地が保全されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他事業効果の発現状況 ・ 用排水路の整備により農地の排水機能が向上し、水田の転作による多品目の農業生産が可能となり、農家の営農意欲が高まった。</p> <p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈 有 〉 ・ 無</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">総事業費</td> <td>3,276百万円</td> <td>3,070百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">工 期</td> <td>H11~H17</td> <td>H11~H23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,683百万円</td> <td>6,041百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>1,756百万円</td> <td>8,266百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.04</td> <td>1.36</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成21年度再々評価地区 ※ 着手時点は投資効率、事後評価時点は総費用総便益比にて算出している。</p> <p>(要因変化の分析) ・ 総事業費：町村合併による施設の利活用計画見直しにより用地整備等の事業費が減となった。 ・ 工 期：用地取得の遅延などによる工期の延長</p> <p>(3)事業実施による環境の変化</p> <p>① 自然環境への影響 ・ 基盤整備を進めたことで、耕作放棄地の発生防止につながり、地域の良好な農村景観が保たれている。</p> <p>② 生活・居住環境等への影響 ・ 農業集落道、施設間連絡道が整備されたことにより、通行が容易になり安全性も大幅に向上している。 ・ 農村公園が整備されたことにより都市住民と地域住民との交流の機会が増えている。</p> <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合） ・ なし</p>	項 目	内 容	農地の保全	降雨時の水路の溢水により、表土の流出が発生していたが、用排水路の整備により排水機能が改善され、農地が保全されている。	項 目		着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費		3,276百万円	3,070百万円	工 期		H11~H17	H11~H23	経済効率性	費用	1,683百万円	6,041百万円	便益	1,756百万円	8,266百万円	B/C	1.04	1.36
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																																				
面積当たり農業所得の増加額	365千円/ha	1,381千円/ha																																																				
施設当たり生活環境施設受益者数	348人/力所	348人/力所																																																				
面積当たり農村公園受益者数	1,350人/千㎡	1,350人/千㎡																																																				
交流施設当たり利用者数	108人/日/施設	70人/日/施設																																																				
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																																				
全幅員4.0m以上道路延長率	3.04%	100% ※1																																																				
施設老朽度（残耐用年数）	0年	25年 ※2																																																				
用排水能力向上率	1.00	1.22 ※3																																																				
項 目	内 容																																																					
農地の保全	降雨時の水路の溢水により、表土の流出が発生していたが、用排水路の整備により排水機能が改善され、農地が保全されている。																																																					
項 目		着手時点の計画	事後評価時点の実績																																																			
総事業費		3,276百万円	3,070百万円																																																			
工 期		H11~H17	H11~H23																																																			
経済効率性	費用	1,683百万円	6,041百万円																																																			
	便益	1,756百万円	8,266百万円																																																			
	B/C	1.04	1.36																																																			

評価シート（2）

<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 < 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ></p>
<p>① 社会経済状況の変化 ・なし</p> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし</p> <p>③ 事業環境等の変化 ・なし</p>	<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 < 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 < 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ></p>
<p>(理由) ・当該事業では場整備を実施したことにより、農業生産法人が参入し高品質な高原野菜が栽培されるなど、農業振興が図られた。また、整備した農村公園では都市住民との交流の場として活用されるなど施設利用状況等が基準値を上回った。以上により、十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/>「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>	<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 < 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ></p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 < <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ></p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的改善策) ・なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>・ほ場整備を契機として、農業生産法人が参入し、レタス、キャベツ等の高品質な高原野菜が栽培され、産地強化につながっている。 ・事業で整備した農村公園は、地域住民の憩いや都市住民との交流の場として各種イベントに活用されるなど多目的に利用されている。</p>

3. 添付資料シート（1）





着手前
空石積みの水路で漏水が多く、一部石積みが崩落している箇所もあり、用排水機能が著しく低下していた。また草刈り等の維持管理にも多大な労力を要していた。

①農業用排水路



完成後
水路整備により流下能力が高まり、下流農地への用水供給が安定するとともに、維持管理も大幅に軽減されている。



着手前
幅員が狭くすれ違いが困難であり、なおかつ未舗装のため通行に支障を来していた。

②農道



完成後
農道の整備により、農耕車が容易にすれ違えるなど、安全性と農作業の利便性が大幅に向上している。

③ほ場整備



狭小で耕作機械の侵入が困難であり、耕作放棄化する農地も増加していたが、ほ場整備を進めたことでブランド米である「梨北米」や冷涼な気候を活かした高品質な特産野菜が栽培され、産地強化につながっている。

④活性化施設



地区内の中心に活性化施設を建設し、営農研修会や、地域イベントなどで利用されている。

⑤農村公園



地域住民の憩いや都市住民との交流の場として各種イベントに活用されるなど多目的に利用されている。

⑥農産物直売所



農村公園に併設する農産物直売所には、地域の特産品や加工品の販売がされ、賑わいを見せている。